

《特設セッション》

立命館大学文学研究科・文化情報学専修連携企画

活用・継承する「データベース」と「データベース」による新知見

立命館大学アート・リサーチセンターは、2011年度まで、文部科学省グローバルCOE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」として、日本で初めてのデジタル・ヒューマニティーズを標榜した教育・研究活動を続け、大きな成果を上げてきました。2012年度以降も大学の支援を受けながら立命館大学日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点として活動を続ける一方、この教育プログラムの資産を文学研究科の教育に引継ぎ、2014年度から文化情報学専修を立ち上げることになりました。ここでは、情報科学、とりわけデータベースの構築や運用を重視した、国際的な共同研究を活性化させるプロジェクト型教育が実施される予定です。

それにあたり、本セッションでは、人文科学と情報学の融合研究において、大きな成果を次々と発表しておられる高野明彦氏を講師に迎え、データベースが人文科学者らの新しい発想を生む活動を支援する方法についてお話していただきます。

また、続いて、立命館大学デジタル・ヒューマニティーズ拠点で蓄積された文化資源情報を活用し、研究活動を続けている若手研究者4名からの研究事例を発表してもらいます。データベースが人文学の研究にとって如何に有効であり、新しい知見や新しい活動を生んでいくのか、実践的な事例により説得力のある説明となるとことでしょう。

以上を受け、このセッションでは、実行委員会から高橋晴子(大阪樟蔭女子大学)、赤間亮(立命館大学)が加わり、新たな段階を迎えた人文科学におけるデータベースの位置づけについて議論します。今回は、有用なデータベースを如何に運営・継承していくのかという重要な論点についても、話題に取り上げます。

【招待講演】

データベースを発想力に変える方法

高野明彦氏

Takano Akihiko

国立情報学研究所

National Institute of Informatics

